

21022 社会福祉調査法 Research Methods in Social Welfare		2 年次～ 通年 4 単位	
担当者	藤島 稔弘	履修可能学科	E Pe Pc C W F N
		関 連 資 格	
サブタイトル	福祉実践のためのデータの見方・扱い方		
授業内容 ・ ねらい	近年、福祉現場ではより質の高いサービス提供が要求されるに伴い、直感や経験に頼った援助ではなく、説明可能な根拠に基づいた援助が求められるようになっていきます。そのため、福祉現場で福祉職として援助活動を実践するには、自らの援助活動の根拠となる情報の収集とその説明が一層不可欠となると考えられます。そのため、本講義では、自らが直面する問題に対して自分自身で解答を見つけるために必要とされる基礎技能の習得を念頭に置いて、社会調査の目的や実際に社会調査を展開する際に必要な一連の実施手順などについて説明を行う。主に、前期には社会調査の基本発想や方法論について講義を中心に、後期には前期の内容を踏まえて社会調査の手法の福祉分野での活用方法について行います。		
授業計画	1 社会福祉と社会調査 2 社会福祉調査の対象 3 社会福祉調査の計画① 4 社会福祉調査の計画② 5 量的調査の調査設計 6 量的調査の調査表作成 7 量的調査のサンプリング 8 量的調査の実査 9 量的調査の集計 10 量的調査の分析① 11 量的調査の分析② 12 質的調査の方法① 13 質的調査の方法② 14 質的調査の方法③ 15 質的調査の方法④ 16 量的調査の活用①調査設計 17 量的調査の活用②調査表作成 18 量的調査の活用③サンプリング 19 量的調査の活用④実査・集計 20 量的調査の活用⑤分析 (1) 21 量的調査の活用⑥分析 (2) 22 量的調査の活用⑦分析 (3) 23 量的調査の活用⑧分析 (4) 24 量的調査の活用100報告 25 質的調査の活用①設計 26 質的調査の活用②データ収集 (1) 27 質的調査の活用③データ収集 (2) 28 質的調査の活用④データ分析 (1) 29 質的調査の活用⑤データ分析 (2) 30 質的調査の活用⑥報告		
教科書 参考書	教) 新睦人・盛山和夫『社会調査ゼミナール』有斐閣		
評価方法	定期試験（60％）、ミニテスト及びレポート（40％）を基に総合的に評価します。		
事前準備学習 履修条件等			